



いけざわこどもクリニック通信

VOL.277
10月号

朝晩涼しくなり、秋を感じるようになりました。通勤の道沿いに赤や白の彼岸花がきれいに咲いています。

インフルエンザワクチンも今月からスタート！！ワクチンの入荷が確定次第、少しずつ予約枠を広げていきます。毎日キャンセルも発生していますので、こまめにご確認をして頂けたらと思います。忙しくなりますが職員一同 頑張ります！

院長 池澤滋

感染症情報	前回	今回
アデノウィルス	6	3
溶連菌感染症	8	7
感染性胃腸炎	32	32
伝染性紅斑（りんご病）	10	15
手足口病	6	1
RS ウィルス	2	5
突発性発疹	10	5
おたふく風邪	0	3
ヘルパンギーナ	10	0
水痘	3	1
新型コロナ	4	7
インフルエンザ A	0	3
ヒトメタニューモ	0	0



10月

- ★クリニック予約
- ★クリニックホームページ
- ★いけざわ beauty (インスタ)
- ★クリニック Instagram
- こちらから → → →



MBTI?!いや、星座と血液型派夫は常にマイペースです。
「タイプ診断、我が家流」



4コマまんが
作・絵
ちえこ&さみこ

おかげさまで生きていく

お彼岸に、廣現寺ご住職様のお話を伺う機会があった。私たちは日頃『人に迷惑をかけないように』と心がけて生きているが、そんなことはできない。だって皆さんは自分で歩いて棺桶に入れますか？』と聞かれて、ハッとした。

私が27歳の時、私の母は若くして亡くなった。今ならどれだけのことがしてあげられるだろうと思うが、当時幼子二人を抱いた私には「親孝行」というものができなかった。「お母さま、そんなに若くに…」と言われることがあるが、余命の「覚悟」ができただけ良かった。余命を宣告されてから数年生きてくれたものの、むしろ母は私の子育てを手伝うばかりだった。母の最後はあっけなくて、私はお別れを言えない。痛みがきて薬を使ったら意識がなくなったのだ。人はいつどんな形で亡くなるのか選べない。ベッドの上で過ごした数か月、母は自分が望んだような時間は過ごせなかっただろう。もっといろんな話を聞いておけば良かった。子どもの頃のこと、戦争中の話。もっとお世話ができたらどんなに救われただろう。母ではなく、私が。

私の体は誰が棺桶に入ってくれるだろう？と考えてみる。夫だろうか？子どもだろうか？施設の職員さんか？そう思うと、本当に人は関り合って生きていかなければならぬのだと痛感するのだ。『誰にも迷惑をかけないように』と生きれば、孤独になってしまふ。生きていることはもう既に誰かに迷惑をかけ、誰かに助けられているということ。



「迷惑をかけないように」と考えるのではなく「有難い」と思うことで、「おかげさま」の精神が次々と湧き上がってくる。

30年前、一歳の息子を連れて北九州の官舎の近くの公園で桜をみてお茶を飲んだ。あの春の日のささやかな一枚の写真は私の宝物になっている。しかし改めて見返すと私の心に残っているのは花の色ではなく、あの静かな時間。母とのかけがえのない‘時’だった。‘母のために’と過ごした時間は、結局私の為だったのだと今になって気が付く。

今の時代、「子どもに迷惑をかけないように」「親に迷惑をかけないように」とよく耳にする。しかしそもそも迷惑とは何だろう？と改めて考える。

一番身近な家族にも遠慮して生きていく…。家族の在り方はこれからどんどん疎遠になるのだろうか。どんなに子どもが大きくなても、私たち親は、子どもの為ならすべて投げうって走ってきます。そんな親心が数年後は逆の立場となり

私が子どものようにご飯をこぼしても、オムツになっても、我が子が笑ってそばにいてくれたならどんなに幸せだろうと思うのです。



そう願いつつ、心のどこかに(迷惑かけないように)「元気でいなきゃ！」と健康の為、夫と日々慎ましい食事をいただきました！



文責 池澤千恵子